

■浄水発生土の有効利用

河頭浄水場、滝之神浄水場、平川浄水場の浄水処理を行う過程では、沈でん池において水分を多く含んだ泥が発生しますが、加圧脱水処理あるいは天日乾燥処理により減量化を図っています。

この減量化された浄水発生土は、グラウンド用土の原料あるいは埋立処分場の覆土としてその全量が有効利用されています。

今後は、資源の再利用を進める新たな有効利用方法の開拓にも取り組む必要があります。

■建設副産物の有効利用

工事等により発生する建設副産物のうちアスファルト・コンクリート塊とコンクリート塊等については、再資源化施設に搬出するとともに、再生資材の有効利用に努めているため、これらのリサイクル率は100%となっています。

また、建設副産物のうち建設発生土については、環境保全やコスト縮減等の観点から、配管の浅層埋設や、工事間利用や現場内利用を図ることにより発生量の抑制に努めています。しかし、建設発生土が埋戻し土として適さない場合も少なくなく、その際は土捨て場へ搬出しています。

このため、建設発生土、アスファルト・コンクリート塊及びコンクリート塊を合わせた、平成19年度末の建設副産物のリサイクル率(PI:4005)は40.8%となっています。

今後は、関係機関との連絡調整を密に行うことなどにより、建設発生土の有効利用に努め、建設副産物のリサイクル率を向上させていく必要があります。



水道管の工事(道路掘削)

番号	4005	業務指標名	建設副産物のリサイクル率		単位	%
定義			指標値			
(リサイクルされた建設副産物量/建設副産物排出量)×100			16年度	17年度	18年度	19年度
			34.6	29.4	35.0	40.8

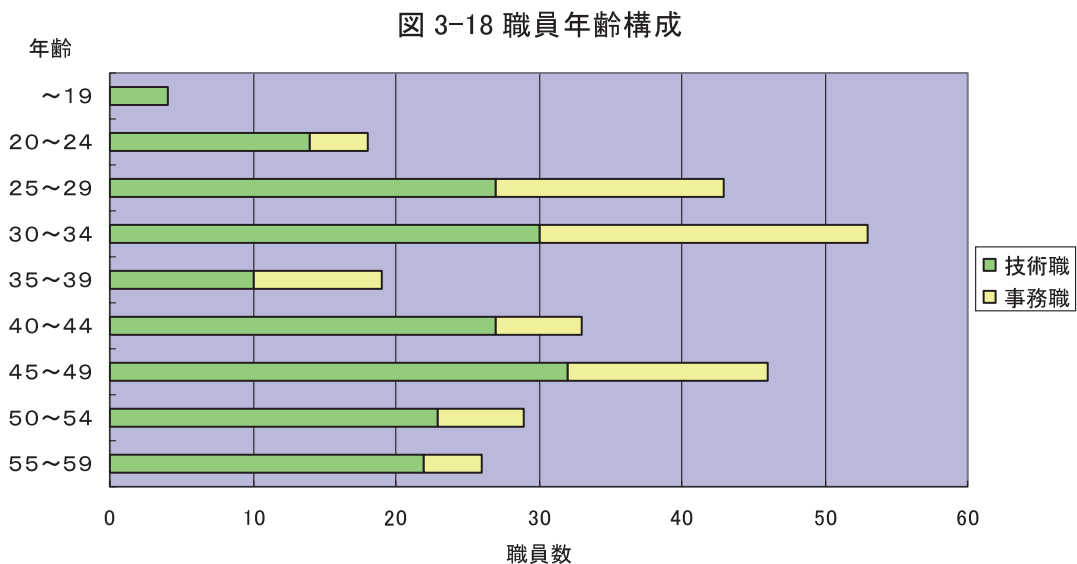
3-10 人材育成と国際協力

(1) 技術者の確保

水質の変化に伴う浄水処理への対応や震災等による大規模な漏水事故等の緊急時には、現場に直結した技術など、水道局独自のノウハウが必要とされます。

習得に時間を要する水道局固有の知識や技術は、これまで長期にわたる経験の中で蓄積されてきましたが、現在、これらの継承が大きな課題となっています。

今後もオンザ・ジョブ・トレーニング(職場内訓練)をはじめとした局内外の研修充実など、人材の確保・育成に取り組むとともに、資格・能力を十分に発揮できる人員の適正配置に努める必要があります。



■職員研修

日常業務と関連のある事項について理解と認識を深めるため、若年層を対象に法令、企業会計など実務面の事務研修や浄水場や水道管路の維持管理、水道の水質管理、配管技能実技、応急給水機材の保守点検及び訓練などの技術研修を行っています。

また、市長事務部局に依頼して行う研修、国及び民間機関等が行う研修への派遣、職務と密接に関連のある資格等の取得や職務に必要な講習会等に参加しています。

■自主研修の支援

自主研修グループ助成要綱を制定し、職員自らが自己研さんに励み、自己を高めていく取組を支援しています。

(2) 海外からの研修生受け入れ

本市の友好都市である長沙市(中華人民共和国)からの研修生を受け入れており、水道事業等の全般に係わる事項について技術交流を行っています。

今後も要請があれば、可能な限り研修生の受け入れを行っていくこととしています。



浄水場の見学(平成20年度 長沙市訪問団)



水質検査の研修(平成18年度 長沙市研修生)

3-11 お客さまアンケートの結果

(1) アンケート調査の概要

水道に関する多様なお客さまニーズを的確に把握することなどを目的に、平成20年度(平成20年4月1日から4月25日)にアンケート調査を実施しました。

調査は郵送により行い、合計859人の方からご回答をいただきました。

ここでは、「水道水の飲み方」と「水道水の味」、「水道水への安心感」、「知りたい情報」、「今後強化すべき取組み」についての調査結果を掲載しています。

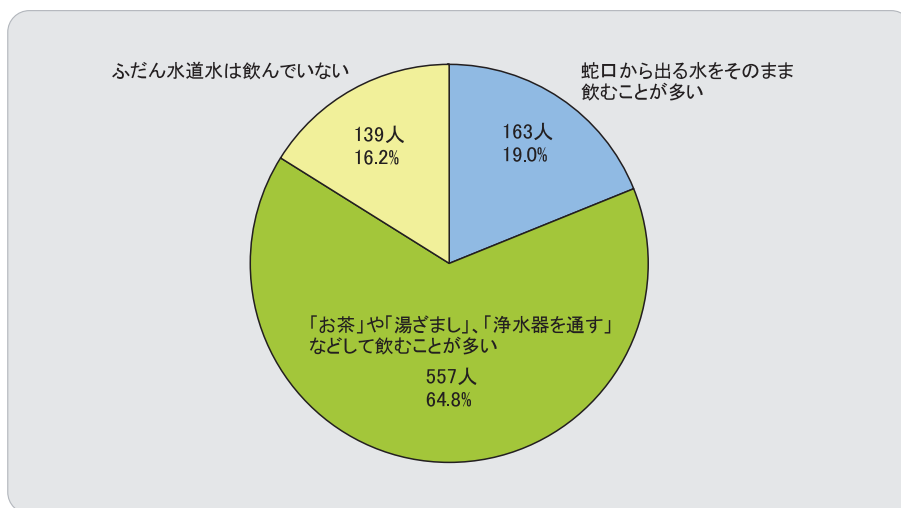
これらの調査結果は、水道ビジョン策定をはじめ、お客さまサービス向上のための貴重なご意見として、今後の事業運営に有効に活用していきます。

(2) 調査結果

① 水道水の飲み方

水道水の飲み方として、「蛇口から出る水道水をそのまま飲むことが多い」及び「お茶や湯冷まし、浄水器を通すなどして飲むことが多い」と回答された方は、全体の83.8%を占め、8割以上の方が、飲料水として水道水を利用していました(図3-19参照)。

図 3-19 アンケート調査結果 水道水の飲み方

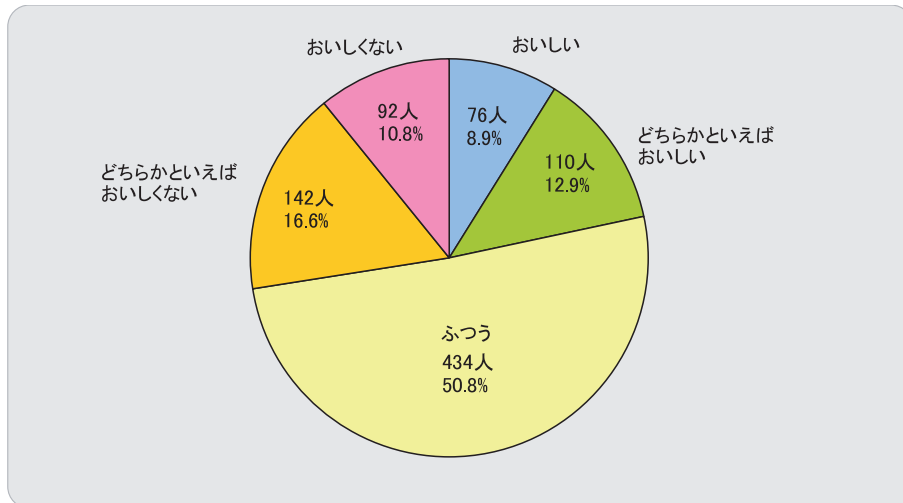


② 水道水の味

水道水の味について、「おいしい」及び「どちらかといえばおいしい」と回答された方は21.8%で、これに「ふつう」と回答された方を含めると72.6%となり、本市の水道水の味については、多くの方から一定の評価をいただいているものと考えられます。

(図3-20参照)

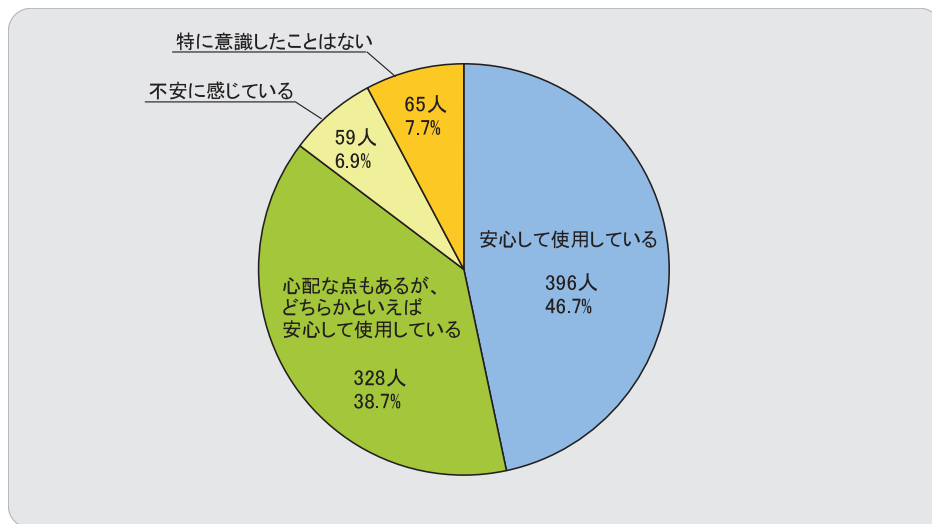
図 3-20 アンケート調査結果 水道水の味



③ 水道水への安心感

水道水への安心感について、「安心して使用している」及び「心配な点もあるが、どちらかといえば安心して使用している」と回答された方は85.3%で、多くの方が安心して水道水を使用していることがわかりました(図3-21参照)。

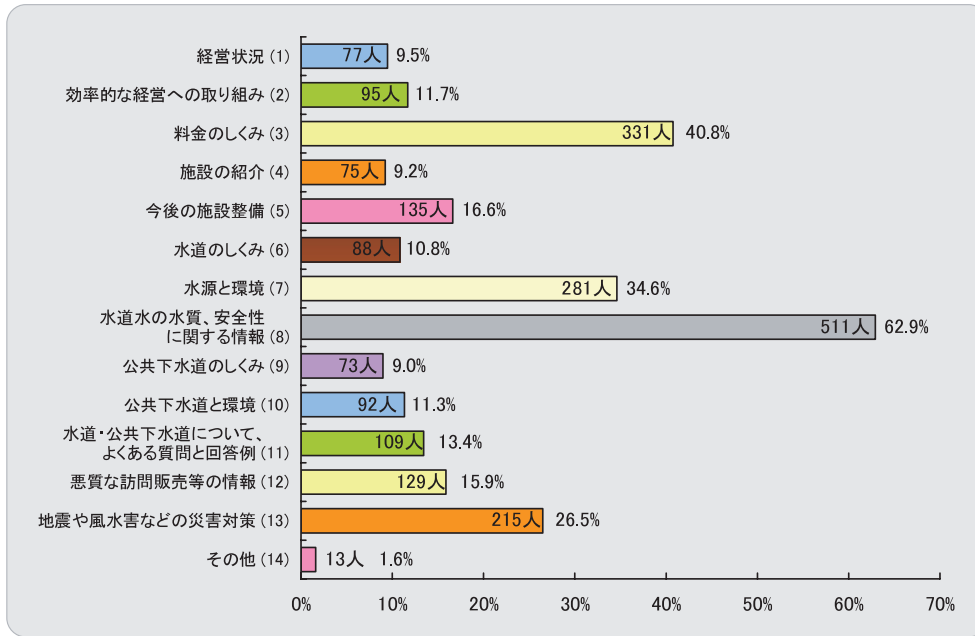
図 3-21 アンケート調査結果 水道水への安心感



④ 知りたい情報

水道について知りたい情報としては、「水道水の水質、安全性に関する情報」が最も多く、6割以上の方が選択されたほか、以下「料金のしくみ」、「水源と環境」、「地震や風水害などの災害対策」の順になっており、安心・安全や環境保全への関心の高さがうかがえます(図3-22参照)。

図 3-22 アンケート調査結果 知りたい情報



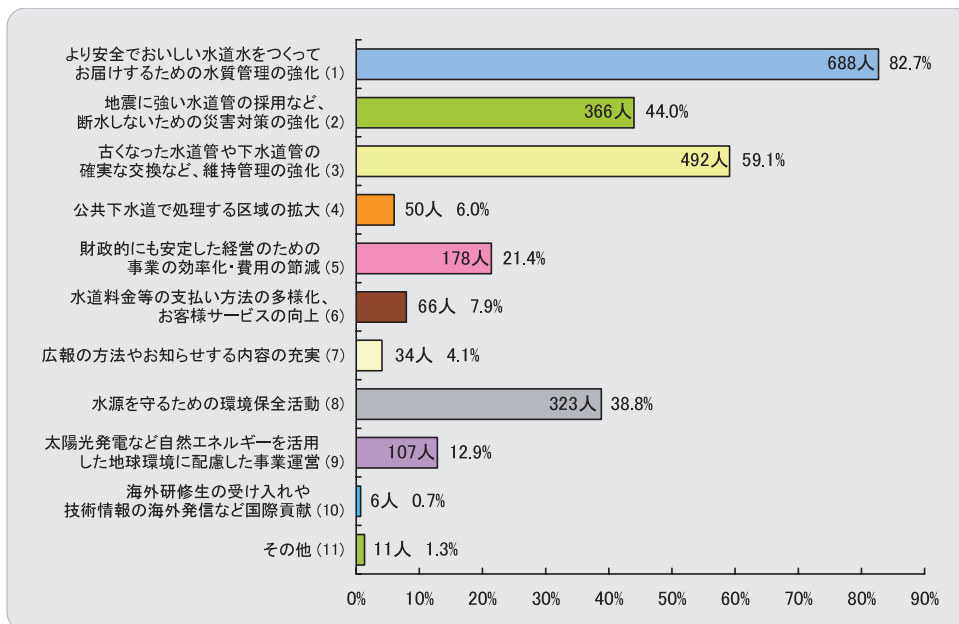
(複数回答)

⑤ 今後、強化すべき取組

今後、強化すべき取組としては、「より安全でおいしい水道水をつくってお届けするための水質管理の強化」を選択された方が最も多く、8割以上の方が選択されています。

以下「古くなった水道管や下水道管の確実な交換など、維持管理の強化」、「地震に強い水道管の採用など、断水しないための災害対策の強化」、「水源を守るための環境保全活動」の順になっており、知りたい情報と同様に安心・安全や環境保全への関心の高さがうかがえます。(図3-23参照)

図 3-23 アンケート調査結果 今後、強化すべき取組



(複数回答)